

WWLコンソーシアム構築支援事業 成果報告会

管理機関 :



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

拠点校 :



関西学院高等部
KWANSEI GAKUIN SENIOR HIGH SCHOOL





■ ALネットワーク・プログラムの取り組みについて

AI活用入門講座について

AI活用 for SDGsワークショップについて

その他の取り組みについて

■ 拠点校の取り組みについて

カリキュラム開発について

学校全体への波及効果について

国内外の他の組織との連携について

■ 来年度以降の予定について

**ALネットワーク・プログラム
(管理機関提供)
の取り組みについて**





1. AI活用入門講座について

【実施目的】

各校の生徒がAI活用に関する基礎知識を習得すること。
 さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決する能力を文系・理系を問わず涵養すること。
 最終講義では、それまでの知識等を活用し、どのように高等学校での探究・課題研究活動に活用できるのか等にも言及している。

【受講対象】

拠点校・連携校の生徒対象

【受講方法】

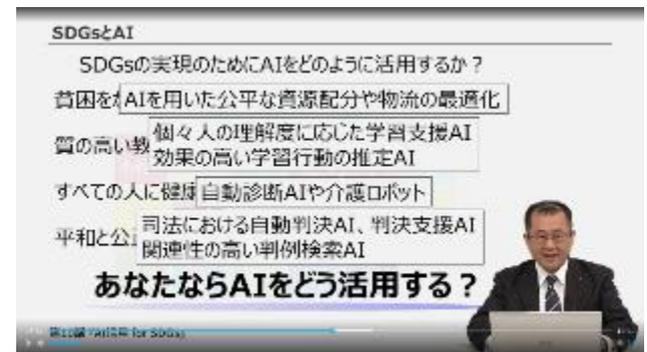
オンラインにてストリーミングで受講
 ※スタディサプリ（リクルート株式会社）を使用

【実施内容】

- ・ 1 講座 15 分程度の動画 × 10 回
- ・ 1 講座終了ごとに確認テストを実施

【視聴状況】

拠点校・連携校26校中14校が視聴
 総視聴者数：518人 総視聴時間：280時間





2. AI活用 for SDGs ワークショップについて

【実施対象】

拠点校・連携校の生徒対象 約200名が参加

【実施目的】

SDGs（国連サミットで採択された持続可能な開発目標）の実現に向け、近年急激に進化するAI（人工知能）をどのように活用できるのかAIについての講義やSDGsについての講義を受け、グループワークを通じて考える。
各校での探究・課題研究活動に“AI活用の視点を取り入れていく”ための機会とする。



【実施内容一例】

- 「AI活用 for SDGs」についての講演
AI：巴波 弘佳 教授 SDGs：神余 隆博 教授
- AIについての基調講演
二上 哲也 様 日本IBM グローバル・ビジネス・サービス事業 技術理事
- 「AI活用 for SDGs」についてのグループワーク・発表



3. その他の取り組み

➤ 拠点校・STEM系教員等派遣

大学教職員の派遣を希望する高等学校に派遣している。

➤ SciTechリサーチフォーラム

関西学院大学の大学生・院生による研究発表、探究・課題研究などに取り組む高校生の研究発表と、研究者も交え、研究発表を通じた交流の場を提供することを目的としている。

➤ Harvard College Japan Initiative × 関西学院大学ワークショップ

関西学院大学生とハーバード大学生、高校生が持続可能な開発目標（SDGs）に対して何が出来るのか、討論し、そこで出てきたアイデアや提言などを一般の視聴者と共有する。

➤ WWL・SGH×探究甲子園

日本国内の高校において取り組まれた探究活動の成果を発表し、共有する。SDGsに関するテーマで「探究活動プレゼンテーション」・「グループディスカッション」2つのセクションで構成して実施している。



➤ 高校生国際交流の集い（SDGs Ideathon）

兵庫県、大阪府の高校生と、日本の高等学校に通う留学生が、関西学院大学でディスカッションやレクリエーションを通して交流する1泊2日のプログラム。楽しみながらお互いの文化や価値観の違いを学び合い、仲間を作ることを目的としている。

➤ 関西学院世界市民明石塾

SDGsをテーマに、明石康塾長（元国連事務次長）による基調講演や、現役国連職員とのディスカッション、カードゲームを通してSDGsへの理解を深め、SDGsを実現するプロセスの体験や、参加者同士での英語・日本語によるディベート等を実施。

拠点校の 取り組みについて





1. 拠点校におけるカリキュラム開発について①

1. 新規科目の設定（高1～3年生対象 選択科目）

「グローバル探究」関連科目7科目を新規開講

（グローバル探究Basic・AI活用・ヒースタディ・グローバルスタディ）

- PBL型・教科横断型・異学年協働型授業への挑戦
- 大学・企業・その他団体等との連携に挑戦

2. 新規行事の設定（高校1～2年生 全生徒対象）

行事として「ソーシャル探究プログラム」を新規実施

- 行事とすることで全ての教員を巻き込むことに挑戦
- 近隣自治体と連携した、地域課題解決プロジェクトに挑戦

※詳細は次ページ以降参照



拠点校におけるカリキュラム開発 ①-1.グローバル探究の各授業について

2年次 関心のある社会的課題を深く掘り下げる

3年次 課題解決のためのアクションを起こす

平和を構築するためのAI活用技術を身につける

これからの社会でますますその重要性が増すAIについて学び、そのAIを活用して様々な課題を解決する技術を学ぶことを目的とした授業です。実際にAIを利用している企業への訪問等を通して、AIを活用する技術を学んでいきます。

AI活用



P Cを用いて創発します
プログラミング学習 / チャットボット作成



社 会に活用します
AI活用アイデアコンテスト 発表

ク ラスメートと協働します
多様なグループワーク 実施

業 とつながります
AI活用企業への訪問と講演

AI活用
アドバイザー

国 立大学での
研究から知見を深めます

関西学院大学工学部の先生方・
学生による講演・サポート



国 立アイデアを
大胆にします

創発的なAI活用プランの
発表と審査



内 容を幅広く学びます

NPO、行政、メディア、産業界との
専門家によるAIに関する講演



内 容を幅広く学びます

NPO、行政、メディア、産業界との
専門家によるAIに関する講演



学 年から学びます
2・3年生社会科授業での
AI活用アイデアの検討

現場で学び、社会的課題への当事者意識を育む

「教室を出て社会に学ぶ」ことを通じて、「平和」や「人権」という大きなテーマに真正面から取り組みます。戦争やエネルギー問題などの具体的な社会的課題に対する自分の答えを探るべく、まずはローカルな視点を持って探究を始めていきます。

ピーススタディ



地 場でフィールドワークを行います
21年度：長崎の城西学院訪問

イ スタシオンを
動かします

マインドマップ作成 /
シンキングワークの活用



自 分の言葉で
平和を語ります

高校生平和大使との交流

史 を探究します

専門家による講演 /
映画・文庫学習



ハンズオンラーニング
アドバイザー



世 界の外の社会に
参加します

ワークショップの企画 開催 /
他校での発表

全 員の意見を
意見分にします

新聞記事切り抜きワーク /
ポスター制作



議 事をさらに深めます

ディベート / 講演を企画 開催

国際的な課題解決のために外国の高校生とつながる

オンラインディスカッションを用いて、外国の高校生と共に身近な社会課題の解決に取り組むPBL型授業です。多様な価値観を越えての協働と探究の学び、そして実践的スキルを認めています。

グローバルスタディ

多 国語を大胆にします

多様な異文化者 インタビュー調査



SDG sの本質を
理解します

SDGをテーマにした
「食」の理解



研 究の視点を自分たちの
視点から切り下げます

ウェビナー作成、
個人調査・大学図書館での共同研究



外 とつながります

SDGと関わる制作の人たちとの
オンライン交流



グローバルスタディ
アドバイザー

国 際でのディスカッションを
深めます

海外の高校生との英語ディスカッション



全 員の意見を
意見分にします

新聞記事切り抜きワーク /
ポスター制作



全 員の意見を
意見分にします

新聞記事切り抜きワーク /
ポスター制作



議 事をさらに
深めます

ディベート / 講演を企画 開催



レ ミオレーションを深めます

クラスメート・大学生・海外の高校生・
教員・海外交流アドバイザーとの交流



拠点校におけるカリキュラム開発 ①-2. 高校1・2年生全員のソーシャル探究プロジェクトについて

ソーシャル探究 (1年生全体)

ソーシャル探究は、1年生が学年全体で取り組む活動です。3学期の毎週1時間を利用して、様々な社会問題について知識を深め、自分たち自身でその問題についてリサーチし、解決策について発表を行う活動です。学期末には各クラスから選ばれたグループがそれぞれの関心のある社会問題について、ノワーポイントなどを用いてプレゼンテーションを行います。



JTB社によるSDGsワークショップも開催



ワークショップの様子



プレゼン発表の様子

←1年次はSDGs全般について学びます

2年次は、近隣自治体からの地域課題の「お題」に、各クラス・グループ単位で取り組み、校外行事として実際にフィールドワークを行い、最終的には、各自治体の担当者も招いての提案を行います。

ソーシャル探究 (2年生全体)

近隣自治体からの地域課題解決の「お題」

- 伊丹市**
「白含ブドウ」の産地である伊丹市。長寿蔵ミュージアムに日本全国・海外から、より多くのお客様に来てもらうには、どうすれば良いか？
- 宝塚市**
「実の心」の産地である宝塚市。世界遺産登録に認定される引にするためには、どのような活動が必要か？
- 播磨川町**
播磨川町産物の販売を促進するためには、どのような活動が必要か？
- 三田市**
「倉庫官公館」で、若者たちが集まるために、大きなイベントを開催したい。どのようなイベントが盛り上がるか？
- 川西市**
川西市に観光客を呼び込むには、どのようなポイントがあり、海産物でできるか？
- 高槻市**
高槻市の魅力を伝えるために、海外へアピールするには、どのような活動が必要か？
- 尼崎市**
「尼崎城」の歴史を伝えるために、観光客の興味を引くために、どのような活動が必要か？
- 高槻市**
高槻市の魅力を伝えるために、海外へアピールするには、どのような活動が必要か？
- 高槻市**
高槻市の魅力を伝えるために、海外へアピールするには、どのような活動が必要か？



校外行事としてそれぞれ提案を担当する自治体へフィールドワーク

最終プレゼンには、各自治体担当者の方にも審査員として参加して頂きました。





1. 拠点校におけるカリキュラム開発について②

3. 文系・理系を問わない、より豊かで高度な学びの提供 高3選択科目として9講座を新規開講

- （これまでに整備した、プログラミング、微積分学、中国・ドイツ語等の第二言語、油絵・声楽等の芸術、ゴルフ・テニス等の体育 各分野の講座に加え）
ビジネス会計講座（TAC社提供）、演劇、アート探究、手話、アントレプレナーシップ講座（BizWorld社提供）、写真演習
といった講座を外部団体と連携して提供

4. 大学教育の先取り履修の実施

本校と関西学院大学の両方での単位認定を可能に

- 高3の選択科目として、関西学院大学の高大連携科目を受講
- これまで聴講生扱いだったものを、科目等履修生へ
- WWL関連科目として1科目を大学と共同で新規開講
「PBL特別演習【福島で学ぶ復興と原発問題】」



2. 学校全体への波及効果について①

1. WWL事業及びコロナ禍をきっかけとして、「学校の在り方」について全教員で考える機会へ

(1)「高等部みらい会議」の実施

- 外部のファシリテーターによる分科会形式での実施
- 学校として話し合うべき様々な話題へ波及

(2)「探究活動」を軸とした学校全体のデザイン構築

- 指導要領の改訂も踏まえ、高等部の学び全体を「探究」を軸に捉え直す動きへ

※詳細は次ページ以降参照



学校全体への波及効果 1.(1) 高等部みらい会議 について

外部からファシリテーターを招き、WWL発信の「高等部らしい学び」だけでなく、「入試」「部活動」「働き方」等、日々の忙しさでなかなかできないトピックについて、世代を超えて話し合う場の提供

第1回 高等部みらい会議



2021年9月22日 (水)
15:20~16:50 (1時間30分)

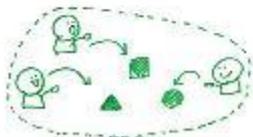


現在、第3回まで実施
今後も継続予定



「高等部みらい会議」の目的

自分たちの「話し合いたいこと」や
「話し合うべきこと」を出し合って、話し合う





これからのリアルな場としての学校の役割は
生徒自身の「**自己の在り方や生き方**」を考える場 = 探究活動の場
をいかにたくさん作れるか？ではないか？

探究活動の定義

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

生徒自身の
「**自己の在り方や生き方**」を考える場
(高上・成田 2016)



〔高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編 2018〕

高上真一・成田秀夫 (2016) 『アクティブラーニング時代のPHIと探究的な学習』 東信堂

関西学院高等部が生徒達に提供すべき場

1. 自分自身で課題設定する場
2. 探究に必要な基礎知識を習得する場
3. 学内で他者と交わる場
4. 学外で他社と交わる場
5. 自分自身の歩みをきちんと振り返る場

1-5をいかに
リンクさせるか？

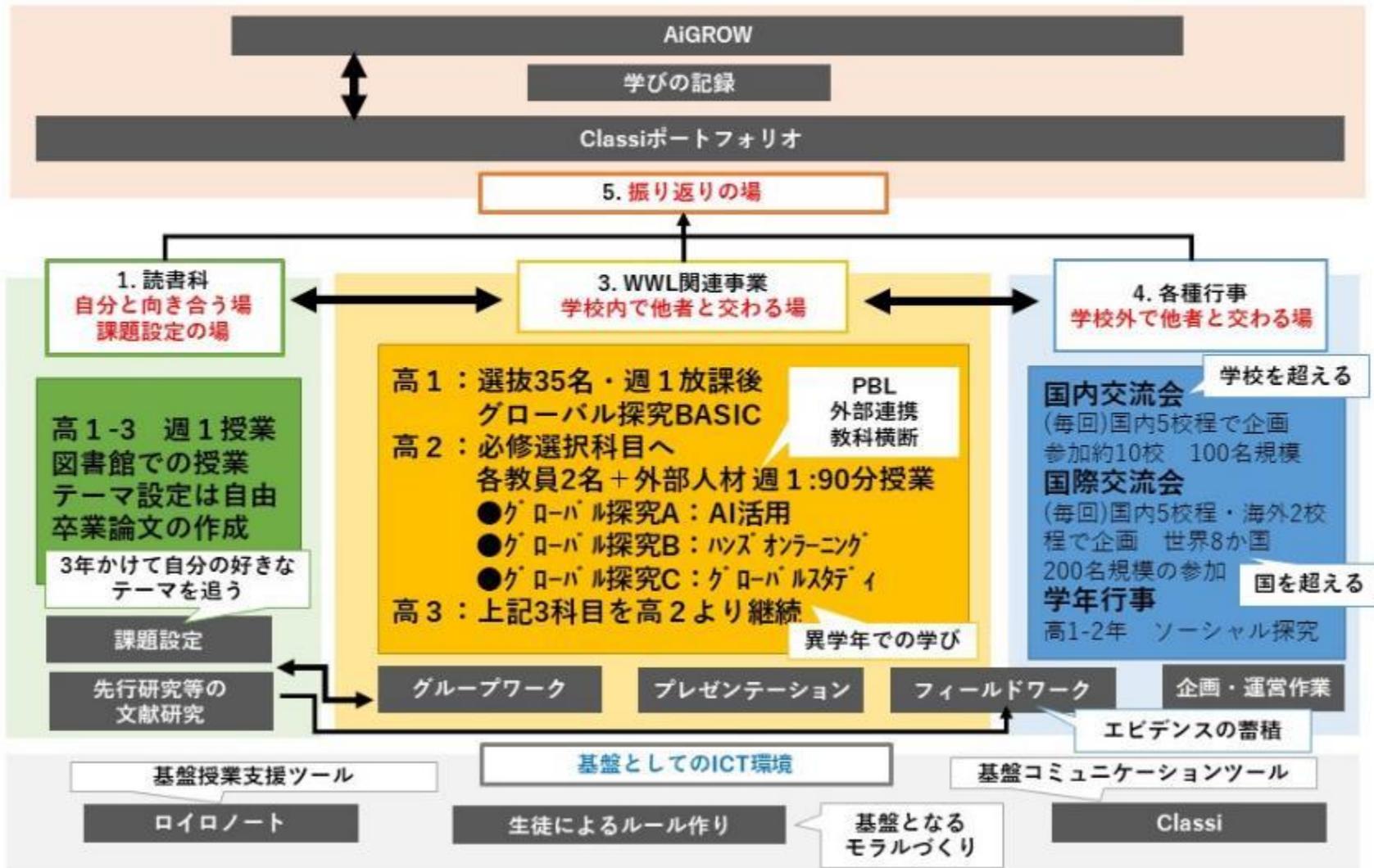


1. 読書科の授業
2. 普通の授業
3. WWL関係授業：1年次グローバル探究BASIC + 2・3年次WWL3科目
4. WWL関係行事：生徒交流会 + 国際生徒交流会 + 学年行事
5. ポートフォリオ (紙・Classi) + 客観テスト(AiGROW)

以降使用するスライドは全て、WWL事業成果普及活動としてClassi社と共催した、「探究学習×ICTカンファレンス2020/2021」での本校資料より



本校の探究学習関連の全体図





2. 学校全体への波及効果について②

2. 通常授業への波及

通常授業でも「探究」を意識した授業へ

- WWL新規開講科目が起点となり、他の授業との相互学習
報告会 (Cross-Curriculum Meeting) も企画

3. 新しい評価軸作りへ

「振り返り」を意識した授業・行事設計へ

- WWL科目が起点となり、プロセス評価を行う科目の出現
「ペーパーテストを課さない、しかし、提出物・成果物の評価だけでもない」
- ポートフォリオ（紙 + eポートフォリオ）と客観テストの組合せ
- 評価が変わることで、生徒の意識も教員と生徒の関係も変わる

※詳細は次ページ以降参照



学校全体への波及効果について②-2. 通常授業への波及について

探究 × 理科



生物の「おもしろい」を発見する
なぜ自然科学の研究をするのか。「人や社会の役に立ちたい」というのは立派な動機ですが、その根底は「おもしろい」からに尽きると思います。知られているだけでも約200万種いる生物は38億年の歴史の中で進化し、人の想像をはるかに超える多様さ、巧妙さを見せます。この授業ではまず生物の「おもしろさ」を知ったうえで、興味を持った

生物種、現象について「おもしろい」を原動力に探究し、プレゼンテーション等を通して的確に伝える力を養います。

参加生徒の声

発表に向けて、英語の論文を資料として利用しました。専門用語が難しく苦労しましたが、日本語の資料や調べて得た知識と組み合わせながらなんとか理解できました。その成果を無事に発表できたことはとてもよい経験になり、自信につながりました。発表は生徒間で相互評価もするので、友達や先生の良いところや改善した方が良いところをよりよく見つけることができました。友達や先生の発表は想像していたよりもレベルが高く、刺激を受けました。(2年生 ██████████)

探究 × 日本史



①「現在」と「過去」の響きあい

「歴史とは、現在と過去との尽きることのない対話なのです」
(E・H・カー)

過去を手がかりに現在を問い直し、常識や先入観・世間の風潮にとらわれない「クリティカルシンキング(批判的思考)」の力を身につけることをめざします。

②「ローカル」と「グローバル」

身近な地域から歴史を見るローカルな視点と、様々な地域を広く関連づけて歴史をみるグローバルな視点を重視します。

2年生必修選択科目学習報告会 Cross-Curriculum Meeting

2年生必修選択の科目の中で、生徒の発表で横断的に連携する機会を実施。教科を超えて(Cross)自由関連に学びを共有し、更なる探究への意欲につながっていくイメージで、Cross-Curriculum Meetingと名づけました。通称クロカリ報告会。Zoomを使用して、各授業の教室から代表生徒が学習した内容の発表を行います。発表を聞く生徒には、フィードバックシートを用いて、生徒同士で評価し合うことで今後のプレゼンテーション能力の向上に努めました。

参加生徒の声

Cross-Curriculum Meetingに参加してみて、他の選択科目が行っている活動や学習していることについて知ることができて勉強になりました。このCross-Curriculum Meetingで共有したことを自分達が取り組んでいる選択授業などの探究活動に活かしていきたいです。(2年生 ██████████)





学校全体への波及効果について②-2. 新しい評価軸作りについて①

振り返りの場は評価ともつながる

5. 自分自身の歩みをきちんと振り返る場
= ポートフォリオ (紙・e) + 客観テスト(AiGROW)

(1) 経験を「させっぱなし」にしない。

(2) 「客観的な視点」をもとに自分を振り返る習慣づけ
= 感想文ではない = ループバックがある

(3) 評価はするけど、教員の視点が常に正しい訳では全くない
= 客観的な指標も必要

W/WL関連科目 基本的な3つの評価物

① 成果物 (プレゼン・レポート)

② 学びの記録 (授業)

③ 振り返り (ポートフォリオ)

② 学びの記録 (紙ベース) について

記録日 _____

高等部グローバル探究 BASIC 学びの記録

年 _____ 組 _____ 番 _____ 氏名 _____

本日の授業で知った新しい知識 (事実)

他者や自分の考え・意見

「頭の中の動き」の見える化

(他) = 他者の考え・意見 (自) = 自分の考え・意見 (先) = 先生の考え・意見
(!) = 驚き (?) = 疑問 (追) = 別途情報収集の必要あり (参) = 参考図書等

③ ポートフォリオ (Classi) について

● ある程度のまとまりを持って行う

● 評価のコメントも行う

評価ループバック

項目	内容	状況
1	17(1) 授業で知った新しい知識(事実)を、自分なりに整理してまとめた。	授業で知った新しい知識(事実)を、自分なりに整理してまとめた。
2	17(2) 授業で知った新しい知識(事実)を、自分なりに整理してまとめた。	授業で知った新しい知識(事実)を、自分なりに整理してまとめた。
3	17(3) 授業で知った新しい知識(事実)を、自分なりに整理してまとめた。	授業で知った新しい知識(事実)を、自分なりに整理してまとめた。



学校全体への波及効果について②-2. 新しい評価軸作りについて②

探究活動の評価の難しさ・・

5. 自分自身の歩みをきちんと振り返る場

(1)ポートフォリオ（紙・e）：

①紙：学びの記録 ②Classiポートフォリオ

(2)AiGROW： <https://www.aigrow.jp/>

他者評価とAI（人工知能）によって個人の資質と能力を可視化する評価ツール。タブレットを用いて、同一料金で1年に何回でも受検可能。

「伸びた！」という「生徒自身の実感」と「この子すごい！」という「教員の実感」を可視化したい

- 生徒：色々やったけど、何が伸びてるの？
- 教員：色々やったけど、何がほんまに効果あんの？

最終的に、(1)(2)を突き合わせて「あ、これやった時に、こんな事感じたから、この力が伸びてるんや」としたい...

たとえばこんな時.....

目的

探究授業に力を注いでいる部分が多いのに、成績に全然反映されません。

WWWにかかる時間が大きすぎて他の勉強に手が回らない時があります。かかる時間は増えていきますが、その他の成績がどんどん下がっていくのが年々です。

色んな経験しても、今の成績表では、何が評価されているのか、何が伸びているのかわからない。

色んなことやった結果、何が伸びてるのかわからん。

この生徒の学びの記録



1年生 BASIC受検時の学びの記録



2年生 グローバルスタディでの学びの記録

AiGROWだと・・





3. 国内外の他組織との連携について①

1. 国内の学校との連携について

(1) 「連携校 教員交流会」の実施

- コロナ禍での探究活動の難しさを共有しようと企画
- 2020年度よりオンラインで2回実施、今後も継続予定、各回50～60名の参加。毎回4～5校の連携校が各校の取り組み発表＋ディスカッションを行い、WWL運営指導委員や検証委員がアドバイスをする形

(2) 「連携校 生徒交流会」の実施

- コロナ禍でもなんとか生徒同士の交流を深めようと生徒が企画
 - 連携校の有志高校生で企画・運営、毎回5校20名程度の運営委員会を結成。Classi社の協力で学校を超えたグループを組み、基本的にオンラインで会議。講師の交渉等も全て生徒が担当。
- ※2020年度よりオンラインで2回実施、今後も継続予定、各回100名程度の参加。来年度以降は、現高3のWWL卒業生が、大学生としてサポートする形を構築中。

※詳細は次ページ以降参照



国内外の他組織との連携について①-1.(2)「連携校生徒交流会」について



運営委員のやり取りは、
基本はClassi等のSNSで

運営委員全員が実際に顔を
合わせたのは開催日だけ



ポスターの作成・配布・SNSでの広報等も運営委員広報班が担当

当日は、各校の発表や講演等のオンラインでの進行を管理





3. 国内外の他組織との連携について②

(3) 授業での小学校・中学校・大学との連携

- WWL関連授業では、高2・3の異学年授業や外部団体・企業との連携だけでなく、高校生による、小学生・中学生・大学生への訪問授業も実施



小学校への
訪問授業



中学校への
訪問授業

「ハンズオンラーニング」受講生徒による、自分達が作成したARマップをもとにした、大学生へのフィールドワークと授業





3. 国内外の他組織との連携について③

2. 海外との連携について

(1) 3回の国際会議の開催

- IOM(International Online Meeting) と題して、First-Second-Finalの計3回を連続させる形で実施
- 連携校の有志高校生と海外生徒、加えて海外交流アドバイザーと大学生のTA(Teaching Assistant)が入り企画・運営
- 2020年度よりオンラインで3回実施、今後も継続予定、各回国内10校150名 海外は4-5カ国100名程度の参加

※詳細は次ページ以降参照

(2) 通常授業内での、海外校との連携授業

- WWL新規科目：グローバルスタディの授業では、通年で海外の学校とZoomをつなぎ（2週間に1度程度）、高等部生と海外の高校生とのグループでPBL型の授業を実施。



国内外の他組織との連携について③-2.「海外との連携」 について

International Online Meetingのポスター（日本語版）

FIRST INTERNATIONAL ONLINE MEETING
Living with COVID-19
High Schoolers' REAL Voices From all over the World
コロナと共に生きる私たち
〜ここでしか聞けない生の声〜
3/27(土) 15:30～

①お互いの国を知ろう！ 15:30～16:10
開会、イベントの流れの説明、各国の紹介をします

②語り合おう！私たちの生活とコロナ 16:10～17:00
日本と海外の高校生が「私たちとコロナ」のテーマでオンラインでグループディスカッションを行います

③語り合ったことを共有しよう！ 17:00～17:30
グループディスカッションの振り返り、内容の共有、閉会

インドネシア、インド、エジプト等の高校生たちとオンライン(ZOOM)で繋がって、コロナ禍の世界について話し合ってみませんか？
使用言語は英語ですが、ディスカッション時には大学生が通訳役としてサポートするので、英語を話す・聞くがうまくできなくても大丈夫です
参加費：無料 (通訳に関わる費用は各自でご負担下さい)

申し込みは各学校の担当の先生へお願いします
申し込み締め切り 2021年3月5日(金)

主催：学校法人 関西学院大学
問い合わせ先：関西学院大学 企画事務局センター(0793-54-6410)

SECOND INTERNATIONAL ONLINE MEETING
「あなたにとっての平和とは？」
コロナの中での学校生活についての平和：国によっての平和
6/24(木)16:00～18:00

①各国の自己紹介・社会問題
それぞれの国についての平和
各国代表グループのプレゼンテーション

②あなたにとっての平和とは？
グループディスカッション
参加者同士は英語でコロナ禍の世界について話し合います

③みんなで見聞を共有しよう！
インドネシア、インド、エジプト等の高校生たちとオンライン(ZOOM)で繋がって、コロナ禍の世界について話し合ってみませんか？
使用言語は英語ですが、ディスカッション時には大学生が通訳役としてサポートするので、英語を話す・聞くがうまくできなくても大丈夫です

申込期間：自由参加です。申込締め切りはございませんが、参加は先着順となります。

申し込みは各学校の担当の先生へお願いします
申し込み締め切り 6月18日(月)

本イベントは、MNLの協賛校である
聖徳大学国際学部、関西学院大学国際学部、
関西学院大学少子・高齢学部、関西学院大学文芸学部、
私立立命館大学文学部、法政大学文学部、
関西学院大学国際学部、立命館大学国際学部、
関西学院大学国際学部、立命館大学国際学部、
立命館大学国際学部
ご参加が希望される方は、
主催・運営を行っています

学校法人 関西学院大学 企画事務局
〒619-0287 関西学院大学 企画事務局センター(0793-54-6410)

学校法人 関西学院主催
FINAL INTERNATIONAL ONLINE MEETING
SDGsと私たちの学び
2021年9月30日(水) 16:30～18:30

First, Secondと続いてきた
INTERNATIONAL ONLINE MEETINGついにFINAL!
最後となる今回はSDGsに関する今までの学びについて、
4か国の高校生が話し合います

Second INTERNATIONAL ONLINE MEETINGの感想を紹介！
海外の同世代の人たちが平和についてどう受け止めているのかを知ることができた
自分自身も発信することができる良い機会だった
英語の知識を伸ばすことができた

詳細は別紙の募集要項をご覧ください！
募集締め切り：9月10日(金)23:59まで
申込期間の延長や申し込み締め切りを延長する場合は以下のメールアドレスまでご連絡ください。
kim.kyoumei@kwansei.ac.jp (KGM実行委員会/関西学院大学国際学部国際教育推進室)



生徒交流会と同じく、連携校で運営委員会を組織し、海外側の運営委員ともオンラインで企画会議を実施し、当日の運営まで行いました。





3. 国内外の他組織との連携について④

3. 企業や大学等外部機関との連携について

(1) 企業との連携

①Classi社：

- ポートフォリオにおける新機能の共同開発
- 全国の教員向け成果報告会「探究学習×ICTカンファレンス2020/2021」を共催

②JTB社：

- 高校1・2年生対象の「ソーシャル探究プロジェクト」の共同開発

③With the World社：

- グローバルスタディの授業や国際会議等海外プログラムを共同開発

④リクルートマーケティングパートナーズ社：

- スタディサプリ上での、AI活用入門コンテンツの共同開発

⑤各授業でのフィールドワーク先として：

- 企業 16社 官公庁・研究所等 4団体 NPO等各種団体 15団体

※詳細は次ページ以降参照



3. 国内外の他組織との連携について⑤

(2) 関西学院大学との連携

- ①何名かの大学教員には、スポットではなく、プロジェクトの一員として恒常的な関わりを持って頂く体制作り
- ②大学生にもTA(Teaching Assistant)として、様々な場面で関わってもらおう体制作り



高等教育推進センターの時任准教授には、カリキュラムアドバイザーとしてほぼ毎週1回、教員の打ち合わせや授業に参加頂いた。



工学部の巳波教授には、「AI活用」授業について全面的に関わって頂き、実習やワークショップの開催だけではなく、高校生のプロジェクトへのアドバイス等を恒常的にして頂いた。



「AI活用」授業の実習や「グローバルスタディ」授業でのメンターとしての参加等、WWL関連各授業で関西学院大学生に参加してもらった。

来年度以降の予定





基本的にはこれまでのプログラムを継続

1. 管理機関は、これまでのプログラムを精査しながら、引き続き高大連携事業を実施していく。
2. 拠点校は、これまでのプログラムを更に深化させ、連携校とも緩やかに繋がりながら、本カリキュラムの学校全体への浸透を図る。
3. 1.2を実施していくための人員配置や来年度予算措置について、既に調整を終えている。

ご清聴ありがとうございました。



関西学院大学

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



関西学院高等部

KWANSEI GAKUIN SENIOR HIGH SCHOOL

